

今年もスタードームが熱い

春を呼ぶ第14回厚真CUP室内少年サッカー大会

厚真カップ実行委員会（市原泰雄実行委員長）主催により「第十四回厚真CUP室内少年サッカー大会」が三月十、十一の両日、スタードームとスポーツセンターの二会場で行われました。

例年この時期に開かれるこの大会に、近隣市町をはじめ札幌市や日高管内から八十八チーム（本町から三チーム）、選手約八百人が参加し、二日間にわたり熱戦が繰り広げられました。

二会場には、随行する保護者などを入れると二日間で延べ約四千人が足を運び、袖が触れ合うほどの熱気。選手たちの全力プレーの一挙手一投足に、応援団の熱い声援が送られていました。

■表彰 優秀選手賞／米澤佑介くん（五年）、松崎康太くん（四年）、末岡叶成くん（二年）、監督特別賞／佐藤公裕くん（三年）



選手宣誓をした澤田涼平くん（5年）のプレー（左）

家族会の演芸に 手拍子で楽しい一日

厚真福祉会ひなまつりと長寿のお祝いが3月3日、同施設で豊厚園、デイサービスを利用されている方やその家族が参加して行われました。

開会にあたり、100歳以上の方や白寿、喜寿、還暦を迎えた方々に長寿を祝う記念品が贈られ、続いて黒田邦俊豊厚園長が「今年は暖冬で町内では例年より早い福寿草開花の便りが届いた。福寿草の名前のように幸福で長寿を見習いたいですね」とあいさつ。入居などをされている皆さんは、家族会が催す演芸などを楽しんでいました。

手でリズムをとる入居されている方々



お互いの作った料理を試食



農家のおかあさんたちの 心のこもった作品そろろ

JAとまこまい広域女性部厚真支部（斉藤育子支部長）主催による「第41回趣味と工夫展」が3月9日、総合福祉センターで行われ、趣味の部、食品の部、小麦粉の部の各部に約100点の作品や料理が出品されました。

農家などのおかあさんなどが農閑期を活用して、丹精こめて作った手芸や試行錯誤しながら考えついた料理などが展示。お互いの料理に舌鼓を打ったり、作品や料理づくりでの苦勞ばなしをしあったりビンゴゲームを楽しむなど有意義な一日を過ごしていました。

まちの話題

胆振東部消防組合厚真支署では、このほど、可搬入消化器具「インパルス放水銃」を石油交付金を財源に四台購入し、厚真支署と上厚真分遣所に各2台を配備しました。

この器具は、空気圧により、水の微粒子を衝撃波として放射し、炎を一瞬にして消火する特徴を持ち、約10mの有効射程。

初期火災や車両火災の消火に対して効果が期待できます。

初期火災や車両火災の消火に威力を発揮



3月18日、スタードームで第27回胆振東部3町親善ソフトテニス大会が行われました。

安平町、むかわ町、厚真町から約30人の選手が集まり、白球を追いかけて親善を深めていました。

毎年、この時期に3町の輪番で運営を行います。会場はスタードームで固定してこの大会。

顔見知りほとんど、真剣なプレーの中にも和やかな雰囲気が漂っていました。

ソフトテニス大会で親善深める



気軽に行ける田舎をグリーン・ツーリズムを学ぶ

町と町認定農業者会議（河村敏弘会長）が主催し三月二十日、総合福祉センターで「町農業経営改善研修会」が行われ、認定農業者や関係者など約五十人が参加しました。毎年、町の農業や地域づくりなどテーマを設けて開催しているこの研修会の今年のキーワードは、「グリーン・ツーリズム」。講演に、(社)北海道地域農業研究所常務理事の黒澤不二男さん、事例発表に、千歳市のグループ野菜代表の中村由美子さんを迎えました。自身で直売や修学旅行生の受け入れをしている中村さんは「今、都会の人などは、行きやすい田舎を探る現象が起きているのではないかと話し、参加者は熱心に耳を傾けていました。」



講師の黒澤不二男さん(右)と中村由美子さん



道路建設(株)などから交通安全旗三百枚寄贈

三月十六日、道路建設・秋津道路経常建設共同企業体の宮崎洋二道路建設(株)社長などが役場を訪れ、交通安全旗三百枚を町に寄贈していただきました。同企業が、町域で工事を行っていたことが縁により、地域貢献の一環として本町へ寄贈していただいたものです。

宮崎社長は「交通安全意識の啓発と交通事故抑止に役立てていただければ」と話していました。



今日は卒業記念のバイキング給食

町学校給食センターでは三月八日、厚南・厚真中学校の三年生にバイキング給食を提供しました。同給食は、毎年卒業間近の三年生を対象に行っているもので、栄養のバランスと色どりに配慮した料理や果物など十五品が並べられました。矢倉寛子さん(厚南中)は「毎日給食が楽しみだった。今日のバイキングも忘れられないな」と厚真の給食をなごり惜しそうに食べていました。